

「渋滞学」とは何か

西成活裕

東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 助教授

Abstract

車や人、生物などは自分自身で能動的に動くことができる粒子と考えることができる。このような新しい粒子を自己駆動粒子といい、その集団現象を研究する分野が近年急速に進展してきている。特に渋滞現象に対しては解析も進んでおり、また計り知れない応用もある。講演では、最近の研究のレビューをするとともに、様々な分野への応用の話をする予定である。

